

令和7年度 第1回 ウェルネスホーム伍楽園地域連携推進会議 議事録

事業所名	医療法人山伍会 ウェルネスホーム伍楽園		
開催日時	令和7年10月22日(水) 13:30~15:00		
開催場所	ウェルネスホーム伍楽園1階 播磨大塩病院デイケア研修室		
出席者	構成員	人数	備 考
	事業所職員	4名	法人理事,管理者,サービス管理責任者,世話人
	入居者	1名	
	入居者ご家族	2名	
	地域の関係者	1名	有料老人ホーム清山荘施設長
	福祉に知見を有する方	名	
	経営に知見を有する方	名	
	市町村担当職員	名	
議 題	(1) 施設見学 (2) 施設長挨拶・地域連携推進会議の趣旨説明 (3) 出席者紹介 (4) グループホームの概要について (5) 施設の方針について (6) 利用者の日常生活の様子について (7) 事故・ヒヤリハットの報告(令和6年度) (8) 施設における課題 (9) 施設の改善点 (10) 利用者、利用者家族、地域の関係者からの感想(構成員の感想) (11) その他意見交換 (12) 閉 会		

協議内容・意見等	(1) 施設見学 ・利用者家族及び有料老人ホーム清山荘副施設長にウェルネスホーム伍楽園の見学・案内を行った。 (2) 施設長挨拶・地域連携推進会議の趣旨説明 ・第1回地域連携推進会議に出席に対する感謝とお礼。会議は議事次第に沿って進行していくことを説明した。 ・地域連携推進会議とは、施設と地域が連携することにより4つのテーマ(①利用者と地域の関係づくり ②地域の方へ施設や利用者に関するご理解を高める ③施設等のサービスの透明性・質の確保 ④利用者の権利擁護)の達成を目的に、地域の関係者を含めた外部の方が参画する会議体である。 ・個人情報について、事前に参加承諾書を記載していただいたが、見学する中で利用者の個人情報を外部に漏らすことのないようお願いをした。事前に保護者及び利用者には文書で同意を得ているが、利用者の権利擁護に伴い改めてご理解していただいた。 (3) 出席者紹介 ・施設長から順番に自己紹介を行った。 (4) 施設の概要について ・当事業所は精神科病院を母体としたグループホームであり、入所の対象者は精神に障害を抱えている方である。 ・入居定員はサテライト住宅2室(2名)を含む計22名である。 ・現在、男性8名と女性9名計17名の利用者がグループホームで生活をしている。 (5) 施設の方針について ・利用者の生活の質を向上させたい。そのためには利用者それぞれの個性や生活習慣を最大限尊重しながら、日々のデイケア活動や就労に適切な支援とバックアップの提供をすること。 ・日常生活・社会生活の場面において、自立するために直面される問題を利用者様の個別の身体面、精神面の状態に応じた適切なサポートを提供すること。 (6) 利用者の日常生活の様子について ・日中は精神科デイケアに17名全員が通所中。その内、3名は就労継続支援B型に週1、2日通所中である。 ・毎朝9時に食堂で利用者の体調確認のためミーティングを行う。利用者はミーティングが始まるまでに体調管理表を事務所へ提出する。 ・体調管理表の内容をスタッフが確認。
----------	---

	・医療機関への受診・各種手続き・買い物については、自分でできるように支援を行っている。（ただし、精神面や身体面で不安を感じている方や一人で行うことが困難な方に対しては、職員が同行や代行支援を行っている。） ・今年の8月13日に新型コロナウイルス感染症に1名罹患し、その後5名の利用者のコロナ陽性を確認した。8月28日に最後の陽性者が陰性を確認し、終息した。 ・今回、多数の感染者が出たためスタッフ及び法人と協議を行い、感染対策の見直しを行った。その内容については、「新型コロナ陽性者発生時の対応について」（別紙参照）の文書を配布し、説明を行った。 ・利用者へケトル商品と常備薬（熱冷まし用）の情報提供を行い、希望者はスタッフが代理で購入した。 （7）事故・ヒヤリハットの報告（令和6年度） 事故3件・ヒヤリハット0件 ・Mさん：外出時に転倒し右前頭部を打撲。右眉3センチ裂傷、右頬3センチの裂傷、上唇内の裂傷。職員同伴で休日救急外来を受診。診察の結果、骨折及び血腫の確認は認められなかった。 ・Oさん：Oさんの前を他の利用者が自転車を走っていた。その自転車が急停車したため、慌ててブレーキをしたところ後方へ転倒。後頭部を打撲した。救急車を呼んだが、意識が鮮明であったため自室で様子を見ることになった。 ・Iさん：自転車で外出時に転倒。ガードレールに前頭部を殴打。地元住民の方が救急要請。施設職員同伴で救急外来を受診、診察の結果、骨折及び血腫の確認は認められなかった。 （8）施設における課題 ・利用者の高齢化に伴い、グループホームのサービス内容の見直し。次の入所施設の調整が急務になっている。 （9）施設の改善点 ・利用者のニーズ（ネット社会）を取り入れ、全フロアのWi-Fi化が今年の5月1日から開始。また日常生活用品を販売する店舗が近隣に少ない立地環境のため、買い物の支援として、コープの宅配を8月より導入した。 ・複数の感染者が出たため、スタッフ及び関係部署と協議を行い、新たに感染症マニュアルを作成した。 （10・11）利用者、利用者家族、地域の関係者からの感想（構成員の感想）、その他意見交換
--	--

	・O氏（利用者）：入居当初とは違い、共用部分の当番が増えて大変だった。しかし、スタッフがよく関わってくれて、フォローをしてくれるので助かっている。薬の副作用（口と手の震え）が気になる。（11月に）サテライト住宅に移ってからの金銭管理が心配。また一人になるから孤独になるか心配。日中活動はデイケアと就労継続支援B型に通所する。 ・O氏（利用者家族）：グループホームの職員の方々に任せっきりで、助かっている。65歳を超えてもグループホームで生活を行うことは可能か。 ・福田施設長（地域の関係者）：サテライト住宅から地域へ戻ることは非常に良い試みである。 ・今田理事：O氏が不安に感じる副作用や金銭管理に関しては、主治医や今後導入される訪問看護職員へ相談することで不安の解消になるのではないか。 ・廣谷施設長：65歳を超えても身体面で変わりがない方は継続してグループホームで生活することは可能。しかし身体面での変化があり、グループホームで生活が困難になってきた場合は介護保険制度を利用し適切な施設へ移行していただく。その際の支援は行う。
--	---